

埼玉アートシアター通信

NO.

29

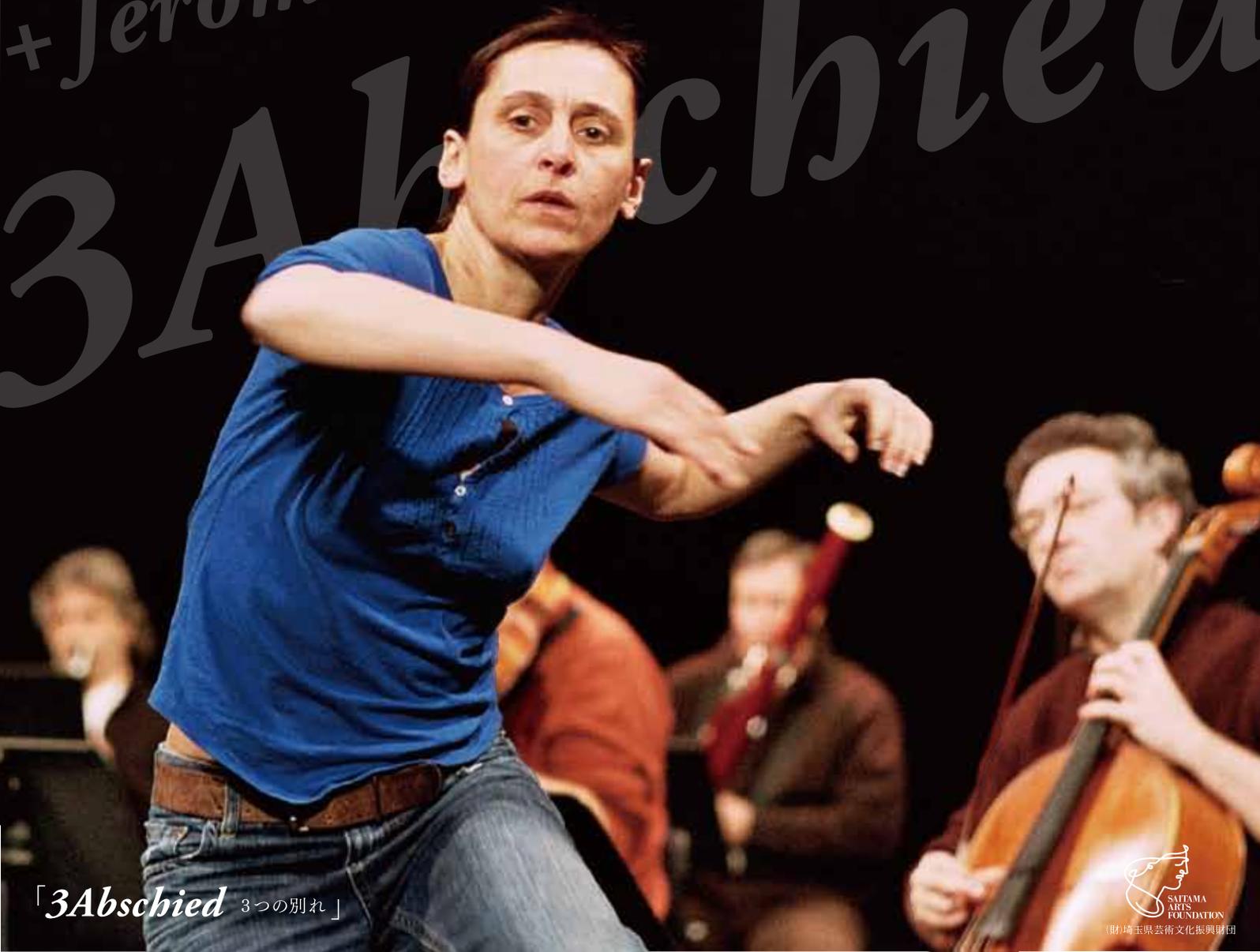
S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

2010.9-10月号

PLAY 維新派再びさいたまへ／ネクスト・シアター待望の第2弾

MUSIC クラシックファンに贈る2010 - 2011コンサートガイド

Anne Teresa De Keersmaeker
+ Jérôme Bel + Ictus Ensemble
3 Abschied



「3 Abschied 3つの別れ」



マーラーの《大地の歌》が流れ、メゾ・ソプラノの唄声が響く。そのなかを「ローザ」のケースマイケルが踊る。最上のパフォーマンスが晩秋の彩の国に展開される。

INDEX

- ESSAY** 彩の国ファミリーシアター
音楽劇『ガラスの仮面 ～二人のヘレン～』—— 赤川次郎 03
- PLAY** 彩の国シェイクスピア・シリーズ
『じゃじゃ馬馴らし』—— 山本裕典・月川悠貴 04
- REPORT** 維新派 〈彼〉と旅をする20世紀三部作 #3
『台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき』
瀬戸内国際芸術祭 犬島公演レポート 07
- PLAY** さいたまネクスト・シアター
『美しきものの伝説』 10
- DANCE** アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル+ジェローム・ベル+アンサンブル・イクトウス
『3Abschied ドライアップシート(3つの別れ)』 14
- MUSIC** Classic Season 2010-2011
秋からニューイヤーにかけて
多彩なプログラムを楽しむ 16
- REVIEW** 2010.9-10月の彩の国のアーツ 19
- EVENT CALENDAR & TICKET INFORMATION 20
- THEATER BRIDGE 23
- 劇場に集う、劇場で働く 照明プランナー【技術スタッフ】 24



【原作】美内すずえ 【脚本】青木 豪 【演出】蛭川幸雄 【音楽】寺嶋民哉
【出演】大和田美帆 奥村佳恵・細田よしひこ 新納慎也 原 康義 月川悠貴 岡田 正 黒木マリナ 立石涼子 香寿たつき・夏木マリ
8月11日(水)～27日(金) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール ©宮川舞子

彩の国ファミリーシアター 音楽劇『ガラスの仮面 ～二人のヘレン～』 2010年8月18日

赤川次郎



あかがわ・じろう◎1948年、福岡県生まれ。76年、函館列車で第15回オール読物推理小説新人賞を受賞し、デビュー。作品が映画化されるなど、続々とベストセラーを刊行。「毛猫ホームズ」シリーズ「ふたり」「天使と悪魔」シリーズ「怪談恋愛坂」「幽霊の怪」「記念写真」他著書多数。2006年、第9回日本ミステリ文学大賞を受賞。現代演劇、歌舞伎、オペラなどの舞台芸術についてのコラム「毛猫ホームズと芸術三昧」を朝日新聞で連載中。

連載中から伝説になるような漫画というものは、めったにあるものではない。何百万という愛読者を持つ、この原作を、蛭川幸雄さんはどう舞台化するのか。

開幕前の役者たちのストレッチから始まって、いつしかダンスナンバーへ。そして、スタートしたら「蛭川ワールド」全開。三時間近くを、テンポ良く突っ走る。

舞台の広い奥行だけでなく、客席の空間もフルに使った展開は観客を巻き込みながら、「演劇ファン」でない「漫画ファン」の若い世代を全く退屈させない。蛭川さんが、これほどエンタテインメントに徹したサービスマン満点の舞台を作るのを初めて見た気がする。

ひたむきな北島マヤ(大和田美帆)、気位高い姫川亜弓(奥村佳恵)、笑ってしまうほど漫画から抜け出して来たような月影千草(夏木マリ)。それに蛭川歌子の香寿たつきがとてもいい。

この上に望むとしたら、音楽劇とはいえず、歌や独白でないセリフ劇の部分で、「劇中劇」以外で、もう少し見たかった、ということとか。北島マヤと姫川亜弓、あるいは亜弓と母親の葛藤が対話劇で描かれていたら、「演じる」ことの光と影がくつきりと浮かび上がったのでは。

ライバルの二人が「奇跡の人」のヘレンを競演し、新人賞を争う。結局マヤが受賞するのだが、受賞者発表の前で終りにする方法もあったと思う。しかし、ラストでは二人がライティングまで見せてくれるのだから、このカタルシスこそ蛭川さんの狙いだったのかも知れない。でも——次は一体何をやるのだろうか？



美男美女カップル 新顔の山本裕典と常連の月川悠貴に迫る

待望のオールメールによる『じゃじゃ馬馴らし』の開宴まであとわずか。その舞台を彩るイケメン2人に直撃インタビュー。期待と不安相半ばという初登場の山本裕典、そしてオールメール全作品で娘役を演じてきた月川悠貴が意気込みを語る。

取材・文：市川安紀[ライター]

The Taming of the Shrew

Yamamoto Yusuke & Tsukikawa Yuki
interview



山本裕典 as ルーセンショー

新しい世界への挑戦に胸おどらせる

この春には連続ドラマ初主演を果たし、注目の若手俳優として着実に経験値を上げている山本裕典。昨年の舞台初挑戦以来、「年に1度くらいは舞台をやりたい」と思っていたそうだが、早くも蜷川幸雄×シェイクスピアと出会うことになった。

「以前、ドラマで“シェイクスピア研究会”の大学生たちのコメディを経験したことはあるんですが、まさかこんなに早く本格的なシェイクスピアの舞台に立てるとは。しかも蜷川さんと一緒にできるなんて本当に幸せです。ドラマの主演で得られた経験を120%ぶつけたという気持ちで一杯ですね」

仕事の充実ぶりをうかがわせる力強いコメントが頼もしいが、一方で「怒られるとダメなタイプなんですよ……」と意外な告白も。「“いいよ”“大丈夫だよ”と言われるほうが自分の個性を出せるというか(笑)。でも、

出来ないのは当たり前なので、逆に“これが今の自分だ”と自信を持ってぶつかりたいです。蜷川さんに怒られても負けません！」

シェイクスピアといえば長台詞も避けては通れないが、演じるルーセンショーも然り。

「台本をいただいて、ドキドキしながら開いたんです。そうしたらルーセンショーの台詞がズラズラッと。まずは台詞を声に出して滑舌よく読んでみようと思ったんですが、カタカナも多くて舌が回らず……2ページで閉じました(笑)。作品の背景も含めて、これからきちんと読み込んでいきたいです」

期待と不安が相半ばといったところだが、

愛知県出身。2006年ドラマデビュー。以降、テレビ、映画、CM等幅広く活躍している注目の若手俳優。テレビドラマでは『花ざかりの君たちへ～イケメン☆パラダイス～』『任侠ヘルパー』『タンブリング』では主演を務めた。映画では『MW・ムウ』『TROOKIES-卒業-』等に出演。舞台では09年7月『戯』、同年12月『パッチギ!』で主演を務める。蜷川演出作品には今回が初参加。今年8月に映画『きな子～見習い警察犬の物語～』が公開された。

未知との出会いを積極的に自分の糧にしようとする意気込みがひしひしと感じられる。「10年後、20年後も役者を続けていくためには、与えられたひとつひとつのチャンスに全力で立ち向かうことが大事だと思うんです。素晴らしい役者さんたちと共演させていただけるので、盗めるところはどんどん盗んで、新たな世界に挑戦していきたい」



月川悠貴 as ビアンカ

美しさの中に人間的な影も見せられれば

東京都出身。1985年初舞台。数々の舞台、テレビなどに出演し、98年演歌歌手に。2000年舞台復帰。代表作に『お気に召すまま』『間違いの喜劇』『恋の骨折り損』『から騒ぎ』などがある。今年、芸能生活25周年を迎え、『ハイクラソナー・オーケストラ』に楽曲提供するなど、本格的に音楽活動を再開。

オールメール・シリーズの象徴とも言えるのが、これまで『お気に召すまま』以降のシリーズ全作で娘役を演じてきた月川悠貴。その華麗な姿に目が釘付けとなったファンも多いのではないだろうか。衣装や髪型などについても研究を重ね、このシリーズならではの「あやかしの美しさ」を醸し出す重要な役割を担っている。

つまり、日常生活で見かける女性の姿をじっと観察し、反面教師にしたのだという。「化粧や洋服でビジュアルは綺麗に装っていても、しぐさや内面の美しさを感じられない女性があります。そうした“美しくないもの”を見て自分の中からその要素を排除していけば、最終的には美しいものしか残らないはずだと考えたんです。人間が生まれてきたままの“無垢”の状態を出発点に、そこ

から役として様々なものをプラスして創造していく」

オールメール・シリーズの前作『から騒ぎ』では、小道具やアクセサリに頼ることなく、シンプルなドレスだけでヒロイン役を優雅に演じ、新境地を切り開いた。今回はキャタリーナ(市川亀治郎)の妹で、山本裕典演じるルーセンショーに一目惚れされる美女ビアンカに扮する。

「前作は髪もショートでドレスもタイトだったので、衝撃を受けた方もいたようです。今回は宝塚さながらに、フリルのたくさんついたドレスで“動くフランス人形”をイメージしています。ただ、美しさの中にも、ビアンカの人間的な“影”の部分も見せられれば……」

ルーセンショーとの“美男美女カップル”の恋の行方に注目したい。

Cast



市川亀治郎
as キャタリーナ



寛 利夫
as ペトルーチオ

Story

舞台はイタリア。学問の都パドヴァに、キャタリーナ(市川亀治郎)とビアンカ(月川悠貴)という姉妹がいた。妹のビアンカが従順で美しいのに対し、姉のキャタリーナは鼻っ柱の強い“じゃじゃ馬”で、男などまるで眼中にない。

ある日、姉妹の行く末を心配した資産家の父パテスタが、妹の求婚者たちに「姉の嫁ぎ先が決まるまで妹は誰も結婚させない」と宣言しているところに、ピザの裕福な商人の息子ルーセンショー(山本裕典)がやってくる。彼もまたビアンカに心を奪われ、一計を案じて召使になりすますよう命じる。

折しも、ヴェローナからはペトルーチオ(寛 利夫)という名の紳士がやってくる。妹の求婚者のひとりから事の経緯を聞いた彼は、自分もまた結婚相手を探していること、相手は金さえあれば誰でもよいことを告げ、強引にキャタリーナとの結婚話を進める。破天荒なペトルーチオに辟易するキャタリーナだったが、話はとんとん拍子に進んでいく。果たしてキャタリーナとペトルーチオはうまくいくのか? そしてルーセンショーとビアンカの恋の行く末は……?

彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』

日時:10月14日(木)～30日(土) 会場:彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出:蜷川幸雄 作:W.シェイクスピア 翻訳:松岡和子
出演:市川亀治郎 寛 利夫 山本裕典 月川悠貴 ほか
チケット(税込):好評発売中
一般 S席9,000円/A席7,000円/B席5,000円/学生席2,000円
メンバーズ S席8,100円/A席6,300円/B席4,500円

10月	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
13:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
18:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

丁々発止の言葉のジャブを堪能して 「調教ゲーム」を楽しむ



The Taming of the Shrew

松岡和子 Kazuko Matsuoka

—— 翻訳した松岡和子さんが語る『じゃじゃ馬馴らし』の観どころ・聴きどころ。

『じゃじゃ馬馴らし』は、シェイクスピアの初期、20代の半ばごろに書かれた喜劇です。でも今日、単純に「喜劇」と見るには大きな問題を含んでいます。いくら超弩級のじゃじゃ馬だからといって、いまどき女性を夫に従う従順な妻に「調教」し、夫を王様だ、支配者だ、君主だとあがめる妻に仕立て上げ、夫婦関係を主従でとらえるなど、現代の観客(特に女性客)にとっては楽しい気分が納得して観ることができるお芝居とはいえないでしょう。

言葉の相性は 性格の相性に通じる

そうした『じゃじゃ馬馴らし』が、400年以上経たずとも人気演目になっているのはなぜでしょう。いちばんの観どころ、聴きどころは、夫になるペトルーチオとじゃじゃ馬キャタリーナの、ああ言えばこう言う、こう言えばああ言うという丁々発止のやりとりのおもしろさです。

2人の掛け合いはまるで対句のようになっています。「ウィット・コンバット(wit combat)」というターム(term=専門語)もあるくらいの「機知合戦」が派手に展開されます。シェイクスピア以後の17世紀の王政復古期の恋愛喜劇でも必ず男と女が丁々発止とやりあって、その結果結ばれるというのは喜劇の王道です。でも実はシェイクスピアの場合、こういうやりとりが出てくるのは喜劇に限られません。今春上演された『ヘンリー六世』でも、エドワード四世がグレイ夫人を口説く場面がそうですし、『リチャード三世』では、リチャードのレイディ・アンへの求愛の場面がそう。あたかもシェイクスピアは、言語的相性の良さが

性格的相性の良さであると言っているかのようで、その極みがペトルーチオとキャタリーナでしょう。最初のうちはどんなに敵対していても、必ず結ばれるというのがシェイクスピア劇ではセオリーなんです。

お互いに打てば響くような小気味いい言葉をポンポン投げ合う。言葉のジャブの応酬で、それぞれが相手を好敵手だと思ひ、その応酬をエンジョイしている。それを生き生きと楽しく見せられれば、後の場面でペトルーチオがキャタリーナを眠らせず、食べさせず、着飾らせず、というやり方で「調教」しても——ところどころで本音をポロッと旧友のホーテンショーにもらしますし——観客には彼が本当にいじめたくてキャタリーナをこらしめているんじゃないことが伝わる。ペトルーチオ自身も食べないし、相手を眠らせないために自分も起きていて、同じように体を張っているんですね。それが自分だけモリモリ食べて、グーグー寝ていたら、まさにDV(domestic violence=夫や恋人からの女性に対する暴力行為)ですよ。最終的にキャタリーナがペトルーチオのゲームのルールに則って周りの人たちを翻弄する楽しさがあります。

かつて福田恆存さんの演出で劇団雲が『じゃじゃ馬馴らし』を上演したとき、私は研究生として近くで観ていたんですが、最後に従順になったキャタリーナ(岸田今日子さん)がペロッと舌を出して引っ込みました。台本には書かれていませんが、ボディランゲージで、「なんちゃって」とやる。本当に、この芝居は「なんちゃって」で締めないと、絶対パスしないですよ。

キャタリーナが大真面目で最後の大演説をして、「なんちゃって」なしだったら、あの自由闊達で人を人とも思わなかったキャ

タリーナが暴力的に調教され、洗脳されちゃうことになり、これはもう悲劇です。『じゃじゃ馬馴らし』は一言一句変えずに上演しても、そうなる危険性ははらむオソロシイ劇です。

観劇後は“じゃじゃ馬”談義で 盛り上がりよう

今回のようにオールメールでやったほうが、生々さが薄らいで、観る側も楽しい。彩の国のオールメール・シリーズは、お客さんもすごく喜んでくださり、『じゃじゃ馬馴らし』を上演する器ができましたし、蜷川さんが亀治郎さんと『NINAGAWA十二夜』をやったこと、そうしたファクターも働いて、今回の上演がすごく楽しみです。

翻訳では、いつものように原文と格闘しましたが、今回は最後の最後で“目からうろこ”に遭遇しました。それはラストの1行。意気揚々と退場するペトルーチオに、未亡人と結婚したホーテンショーが「おまえは手のつけられないじゃじゃ馬を調教しちゃったな」と“現在完了形”で言うのに対し、妹のビアンカと結婚したルーセンショーのセリフが“未来形”なんですね。つまり調教は完全に終わったわけではない、「いや、しなかったんじゃないぞ」というニュアンス。たぶんシェイクスピアも「どっこい、そうは問屋が卸さない」という感じで、オープンエンドにしたのでしょう。

終演後、女性のお客さんも男性のお客さんも、このお芝居をネタにしておおいに盛り上がりたがっています。自分自身がどの程度のじゃじゃ馬なのか、「私は全然じゃじゃ馬じゃないわよ」と思っている人が傍から見ると違うかもしれないし。(談)

台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき

維新派
〈彼〉と旅をする20世紀三部作#3



全長4mの〈彼〉を連れて
瀬戸内の犬島から彩の国へ

精緻で大がかりな舞台、単語・擬音の羅列からなる独特のせりふまわし、そしてまるでパズルのピースのような記号的な振付け。野外、それも湖畔や大きなグラウンド、離れ島などでの公演を続けている維新派。2017年11月、彩の国さいたま芸術劇場でも見事に、20世紀の記憶を表現し、これを観た蜷川幸雄を驚嘆させた。この冬、その三部作の最終章をもって再び彩の国にお目見えする。

Inujima performance Report

取材・文：乗越たかお [作家・ヤサぐれ舞踊評論家]



Photo: 百々寿治

(左) スロープを登って客席へ
丸太4000本強を組んだ野趣満点の舞台

維新派といえば、野外劇の雄。忽然と巨大な劇場を創り上げ、芝居を上演し、釘一本残さず去っていく「蟹気楼劇場」として名高い。筆者もかれこれ20年近く通い詰めている。8月には『台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき』の初演を見るため瀬戸内海に浮かぶ小さな島・犬島を訪れた。

ここは数奇な運命の島である。1909(明治42)年、時の明治政府の基幹産業たる銅の精錬所が造られ、多くの人を押寄せた。えらく活気づいたものの、たった10年間で操業は打ち切れ撤収。その後はほったらかしにされてレンガ造りの精錬所も朽ちるに任せるといふ、まるで一発屋の芸人みたいな扱いで打ち棄てられていたのだ。いわば島全体が廃墟。そのなかに立ち上がってくる維新派の舞台は、まさに地から湧き出す「いぶかしきものたち」だった。だが行くまでが一苦労だ。まずは岡山駅から直行バスで船着き場へ行き、船で犬島に乗り付ける。ちょうど瀬戸内国際芸術祭をやっていたので、ついでに他の島々へも美術を見に行くのだが、交通手段は船しかない。この不便さが、じつは楽しい。

犬島への海の道から芝居は始まっている

犬島での維新派公演は2回目、8年前の『カンカラ』を観に訪れたときは、崩落寸前のレンガの煙突も放置されていた。しかしいまはアートプロジェクトなどがあり、危険なところは補修され、こじれたカフェなどもできていた。島の宿泊施設が極端に少ないので、オレは公演チケットより先に宿を押さえておいた。これで公演終了後も帰りの船を気にせず屋台村で飲んでもらえることができるという寸法だ。

屋台村とは、これまた維新派には欠かせぬ存在だ。舞台の前、劇場でいえばワインやシャンパンを傾けて開演を待つホワイエの位置に、丸太を組んだ闇市が建ち並び、ビールや焼酎をおあるのである。そしてプロもしくはプロ並みの料理を出す屋台がズラリと並ぶ。床屋もあればマッサージもあり、ライブもやっている。このカオスな空間からして維新派の舞台は始まっているのだ。舞台はまだ夕闇が迫る前の明るいうちから始まり、日暮れと共に進んでいく。今回は『〈彼〉と旅をする20世紀三部作』の締め

くくりとしてのアジア編である。それも台湾をはじめ日本南方の島々を渡る、もしくは侵略していった史実がモチーフとなる(〈彼〉が誰かは、まあ見てのお楽しみだ)。観客は皆、実際に「海を渡って来る」ことを体験済みであり、さらに深く話にのめり込むことになる。

屋台村から劇場に入る方法は二通りあって、下から入っていくコースと、大きく曲がりながらスロープを登っていき(海に沿って造られているので、見晴らしがべらぼうに良い)客席の最上段から入るコース。これまた「違う島へ渡っていく」感覚である。

これは“彩の国版”も観なくては

彩の国さいたま芸術劇場での公演では色々変化もあろうし、興を削ぐことにもなるから、ここで詳細に触れることはしな



維新派名物の屋台村

いが、冒頭、まだ明るい空を背景に浮かび上がるのは、何十何百という木材が天に向かって伸びているシーンである。いつの間にかそれは、貧しくも活気のある街並みとなり、様々に変化していくことになる。

今回、セリフはあるのだが、会話になっている部分は極端に少ない。物語よりも「単語＝事実」の羅列によって大きな歴史の流れを大きなまま見せようとするかのようだ。そして単語を載せた歌が迫力の群舞とともに展開されていく。「チャンチャン☆オペラ」というとおり、言葉遊び的な、しかしどうにも耳から離れない不思議な発語に合わせて舞台のあちこちでダンスが起こる。そう、「起こっている」という感覚に近い。

そして目の前で展開されていくアジアの歴史に思いをはせながらも、時折ぽかんと空を見上げると、空からポロリと落ちてきそうなくらいの見事な満月が、話の進行と共にゆっくりとその居を変えて空を渡っていく。無音になれば、遠くに波の音が聞こえる。海も空も、すべてが世界につながっているのだ。そしてかつて戦争があったと



独特の振付けとせりふまわしが心地いい

きも、これらの自然は変わらずにあったのだろうと肌で感じることができる。そういう悠久の流れと目の前の芝居がダイレクトに交差しあいながら進んでいったのだ。

……そんな思いで見た犬島のあの場所も、今は更地で何も残ってはいない。

彩の国さいたま芸術劇場での公演は、野外よりもコントロールが利く劇場環境で、綿密に創り上げられていくのが期待だが、それもまた一期一会であることに変わりはない。絶えず失われ続け、それでも生み出され続けていく舞台。それは歴史も、人の命も、日々の営みも、全く同じことなのである。

〈彼〉と旅をする20世紀三部作



Photo: 福永幸治(スタジオ・エゴック)

第一部『nostalgia』(2007-2009)

〈彼〉と旅をする20世紀三部作の第一部作品として、大阪、埼玉、京都を巡演後オセアニアツアーも行う。政治、経済、社会、科学…あらゆる分野で劇的なまでの変化をみせ、人類が肥大化したとも捉えられる20世紀の歴史、地理を象徴するものとして、4mの巨人を登場させた。

第二部『呼吸機械』(2008)

伊吹山を背にして、客席から舞台奥の湖に向かって傾斜していく〈びわ湖水上舞台〉。〈彼〉と旅をする20世紀三部作の第二部となる本作品は、照明効果による湖面の美しさ、広大さの演出、ラストシーンでは舞台一面に水を流し、総勢50人の役者による水しぶきを上げながらの演技など、水上舞台の特性を十二分に活かした。第8回朝日舞台芸術賞アーティスト賞、平成20年度芸術選奨文部科学大臣賞。



Photo: 福永幸治(スタジオ・エゴック)

維新派

関西を拠点とし、主宰・脚本・演出をつとめる松本雄吉を中心に、さまざまな場所で公演を行う。「移民」や「漂流」をキーワードにして、1970年の創設以来、一貫してオリジナル作品を上演している。発語、踊り、音楽など、どの点においても、世界的に類を見ない集団で、とりわけ、野外に自らの手で巨大劇場を建設するという手法は国内外から注目を集めている。
<http://www.ishinha.com/>



主宰の松本雄吉

〈彼〉と旅をする20世紀三部作 #3 『台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき』

日時：12月2日(木)～5日(日)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
作・演出：松本雄吉 音楽：内橋和久
チケット(税込)：一般：S席 5,000円 / A席 3,000円
メンバーズ：S席 4,500円 / A席 2,700円
発売日：一般：10月2日(土) メンバーズ：9月25日(土)

	12月	2	3	4	5
曜日		木	金	土	日
13:00				●	●
18:00				●	
19:00	●	●			



広場のまんなか、花で飾った一本の杭を立てろ。そして、そこに民衆を集めろ。そうすれば、そこで、祭りがはじまる。

『美しきものの伝説』

『美しきものの伝説』が伝える変革への情熱

文：扇田昭彦 [演劇評論家]

宮本研の戯曲『美しきものの伝説』が文学座で初演されたのは1968年、今から42年も前のことだが、その舞台の感銘は今も忘れることができない。それは私にとってほとんど衝撃的な体験だった。

東京公演はこの年の4月、朝日生命ホールと砂防会館ホールで行われたが、当時、私は朝日新聞横浜支局の記者だったので、5月に横浜の神奈川県立青少年ホールで観た。

この作品は大正デモクラシーの時代を、時代に抗しながら激しく生きた革命家たち(大杉栄、荒畑寒村、堺利彦)、芸術家たち(島村抱月、小山内薫、辻潤、沢田正二郎、中山晋平、久保栄)、青鞥社の

新しい女性たち(伊藤野枝、平塚らいてう、神近市子)をパノラマ的な視点で描いている。

特定の主人公を置かない群像劇だが、実在の人物をもとに、周到に喜劇的に相対化して描いた登場人物たちは個性的で、魅力的だった。しかも、立場を異にする彼らが交わす激しい議論と彼ら自身の「死ぬほど生きた」生き方を通して私たち観客に切実に伝わってきたのは、社会的にも芸術的にも世界を丸ごと変えてしまおうという若者たちの志と情熱だった。社会変革を傍観視するニヒリスト・辻潤(役名は幽然坊。細川俊之が好演した)の肖像も鮮烈だった。

宮本研(1926~88年)は戦後の新劇を代表する劇作家の一人で、『明治の枢』『夢・桃中軒牛右衛門』など、変革者たちの肖像を好んで描いた。私は個人的にもつきあいがあったが、人なつっこく、酒好きで、いつも強い懐かしさを感じさせる人だった。

『美しきものの伝説』は文学座が初めて上演した宮本研作品だったが、演出の木村光一は思い切って若い清新なキャストを組んだ。野枝役の吉野佳子(現・由志

子)、早稲田役の江守徹、突然坊役の大地喜和子はいずれも24歳の気鋭で、四分六を演じた最年長の加藤武でも39歳。演技陣のほぼ全員が20代と30代だったのだ。そして、この若い俳優たちのパワーは、変革者たちの若々しい情熱がぶつかりあうこの作品によく似合った。

この作品が初演された1968年、フランスでは学生たちの手で「五月革命」が起きた。日本国内では日本大学が全学ストライキに入るなど、全国115の大学に学園紛争が拡大し、成田空港建設に反対する三里塚闘争も盛り上がりを見せていた。演劇界でも、唐十郎の状況劇場、寺山修司の天井桟敷などの、いわゆるアングラ劇団が前衛的な演劇活動を行い、蜷川幸雄、蟹江敬三、石橋蓮司らの現代人劇場もこの年に結成された。『美しきものの伝説』は、このように変化を求めるエネルギーが騒然と渦を巻く時代の中で生まれたのだ。

『美しきものの伝説』は人気のある作品で、文学座は1971年に再演したし、その後もさまざまな劇団・集団が上演している。2009年も新国立劇場演劇研修所が第三期生の試演会として上演したばかりだ(西川信廣演出)。

ただし、今の若い世代にとって、この作品がやや遠い感じになっていることは否定できない。文学座がこの作品を初演したころは、「暖村」のモデルとなった荒畑寒村は評論家として健在で、初演を観劇したし、「サロメ」のモデルの神近市子もまだ現役の衆議院議員だった。辻潤と野枝の長男である画家で詩人の辻まこと(舞台には登場しないが、劇中では「一」と呼ばれる)も、渋谷の居酒屋で飲んでいる姿を私は何度も見かけた。つまり、初演当時、『美しきものの伝説』の劇世界は、過ぎた時代ではあったが、観客にとってはまだ身近だったのだ。

だが、今の若者たちは、登場人物のモデルとなった実在の人物自体を知らないことが多い。登場人物の多くを実名ではなく、「ルパンカ」「音楽学校」などあだ名で呼ぶこの戯曲の方法も虚実の関係が分かりにくい一因だろう。大正時代の社会と演劇についての、若い観客向けの事前のインフォメーションが必要かも知れない。

昨年10月、さいたまネクスト・シアターで福田善之の『真田風雲録』に取り組み、斬新な演出を見せた蜷川幸雄が、再び1960年代を代表する秀作劇『美しきものの伝説』を手がけるのは、この作品のファンとしてとてもうれしい。

昨年9月、蜷川は変革を目指す19世

紀ロシアの知識人の群像を描くトム・ストッパードの大作『コースト・オブ・ユーロピア』三部作を演出したが、群像劇『美しきものの伝説』も内容的に共通するところが確実にある。何よりも若い世代の

切実な情熱とパワーが必要な作品だから、これはネクスト・シアターの若い意欲的な俳優たちにぴったり合うはずだ。蜷川幸雄が初めて手がける宮本研作品でどんな舞台作りを見せるのかも楽しみだ。

でも、そこに人がいる。だったら、話しかけてみたいじゃありませんか。わかってもらえるかどうかは別として

———「夢・桃中軒牛右衛門」より

作家 宮本研ってどんな人?

1926-1988 熊本県天草に生まれ、幼少期の7年間を中国大陸で過ごす。九州大学卒業後、法務省入省、職場劇団「麦の会」をつくり、劇作・上演活動に従事。62年法務省を退き、劇作一本に。『美しきものの伝説』

のほか、『僕らが歌を歌う時』『ザ・パイロット』『明治の棺』『阿Q外傳』『からゆきさん』などを発表。史実とフィクションを巧みに織り交ぜた劇作は高く評価され、戦後劇作家の中心人物の一人として活躍。

『真田風雲録』から1年 さいたまネクスト・シアターが挑む2作目

大ホールの舞台上に仮設の客席をつくり(インサイド・シアター)、舞台に泥を敷き詰め、『真田風雲録』で旗揚げしたネクスト・シアター。言葉では形容することができないほどの過酷な泥舞台で、歌い、踊り、殺陣に奮闘する若者たち、戯曲本来のおもしろさに加え、メンバーの共感と称賛の拍手がおくられた。その後、メンバーの見直しが行われ、外部公演にも数多く出演するなど経験を積んできた彼らだが、この2作目は、その成果も含めて真価が問われることになるだろう。1年を経てどれだけ成長したか、今回はまさに60年代の伝説の舞台といわれている『美しきものの伝説』に挑む。



第1回公演『真田風雲録』 Photo: 宮川舞子



1968年、文学座初演の舞台



花で飾った一本の杭を立てよう。そこに民衆を集めよう。そしたら、それが祭りになる。必要なのは祭りだ。……幸福で自由な民衆には、劇の必要はない。必要なのは祭りだ。……そのための劇。そのための仕事。

出る杭は打たれる。そりゃ、そうかも知れん。しかし、打たれることによって地面にくいこむ。人柱になる。

『美しきものの伝説』の伝説

— 急ぎ足で駆け抜けた、それぞれの青春 “ベル・エポック” と呼ばれた大正時代が舞台



青鞥社の女性たち

時代背景

新しい演劇を模索する新劇誕生の前夜を描く

激動の明治と、戦争へ向かう昭和初期には生まれ、“ベル・エポック” と呼ばれたわずか15年間の大正という時代。演劇革新に燃え、新しい演劇に我が身を賭ける演劇人。新時代の政治を目指し、社会主義に憧れ、革命を語り、奔走する知識人。新しい女性像を求めて女性解放運動を実践し、恋に生きる女性たち——。しかし、一見自由に見えたその中に、国家権力が土足で入り込み、罪なき人々を翻弄する。この芝居は、そんな時代を先走り、時代に殉じた青春のつぼと化した美しきものたちの伝説であり、鎮魂のうたである。

西暦	年号	日本の動き	世界の動き
1906	明治 39		
1908	明治 41	赤旗事件①	
1909	明治 42	伊藤博文暗殺	
1910	明治 43	大逆事件②	辛亥革命
1911	明治 44	普通選挙法衆議院可決	タイタニック号遭難
1912	明治 45	明治天皇崩御	
1913	大正 2		第一次世界大戦勃発
1914	大正 3	対独宣戦布告	
1916	大正 5		ロシア革命
1917	大正 6		第一次世界大戦終結
1918	大正 7	米騒動	スペイン風邪流行死者15万人
1919	大正 8	関東軍設置	国際連盟成立
1920	大正 9	初のメーデー	ソビエト連邦成立
1922	大正 11	日本共産党結成	
1923	大正 12	関東大震災	
1924	大正 13	治安維持法・普通選挙法公布	
1925	大正 14	大正天皇崩御、昭和となる	
1926	大正 15		

- 「美しきものの伝説」関連
- ① 文芸協会設立 (逍遙・抱月)
 - ② 自由劇場第1回試演 (小山内・左團次)
 - ③ 「売文社」設立
 - ④ 文芸誌「青鞥」創刊 (平塚らいてう)
 - ⑤ 文芸協会「人形の家」上演
 - ⑥ 芸術座結成
 - ⑦ 芸術座「復活」(抱月・須磨子)
 - ⑧ 「カチューシャの歌」大流行 (中山晋平)
 - ⑨ 日蔭茶屋事件。野枝、辻と別れる
 - ⑩ 新国劇創立 (沢田正二郎)
 - ⑪ 抱月、スペイン風邪で死去
 - ⑫ 須磨子自殺・売文社廃業
 - ⑬ 大杉・野枝虐殺される (甘粕事件)
 - ⑭ 築地小劇場創設 (小山内・土方)

①赤旗事件

『平民新聞』に不穏な論文を書いたとされ入獄していた山口義三君出獄歓迎会の閉会後、「無政府」「無政府共産」「革命」を書いた3本の赤旗を掲げ、町中で警官と大乱闘、大杉栄、荒畑寒村、堺利彦らに懲役が言い渡され、やがて起こる大逆事件の原因となる。

③文芸協会

設立案はヨーロッパ留学から帰国した島村抱月がたて、坪内逍遙が会長となり、逍遙邸に演劇研究所をつかって新劇運動と国劇樹立の理想を掲げた。逍遙は新舞踊劇とシェイクスピアの紹介(個人訳で全37本を翻訳)、抱月はイブセンの移入(松井須磨子が「人形の家」でノラを演じる)と、当初から2人の間で微妙な差があったが、研究所出身の須磨子と抱月の恋愛から協会内で対立、抱月・須磨子らは協会を去り、協会は解散。

②大逆事件

当初は目的不明の爆発物を所持していた4人が逮捕されたが、ついで菅野サガ、幸徳秋水らも逮捕、さらに政府はこれをあらゆる社会主義者を捕らえる機会に利用しようと「爆裂弾製造事件」が「大陰謀事件」となり、いつの間にか大逆罪が適用される「大逆事件」となり、逮捕者は全国で数百人におよび、秋水ら12人に死刑が執行された。この後、政府は社会主義者への弾圧を井強め、社会主義運動は「冬の時代」を迎える。

④自由劇場・築地小劇場

明治末年に起こった新劇運動のひとつ。小山内薫と二世市川左團次により興された近代劇運動で、文芸協会とほとんど同時期に創始。有楽座でイブセンの『ジョン・ガブリエル・ポルクマン』で第1回試演を行う。以後、ゴリキーやハウプトマンの作品を上演、左團次の脱退で1度中断したあと、大正8年ブルーの『信仰』を最後に活動を休止。その後、小山内は土方与志と組んで築地小劇場で同名の劇団を結成、現在にいたる多くの新劇人がここから巣立った。

⑤芸術座

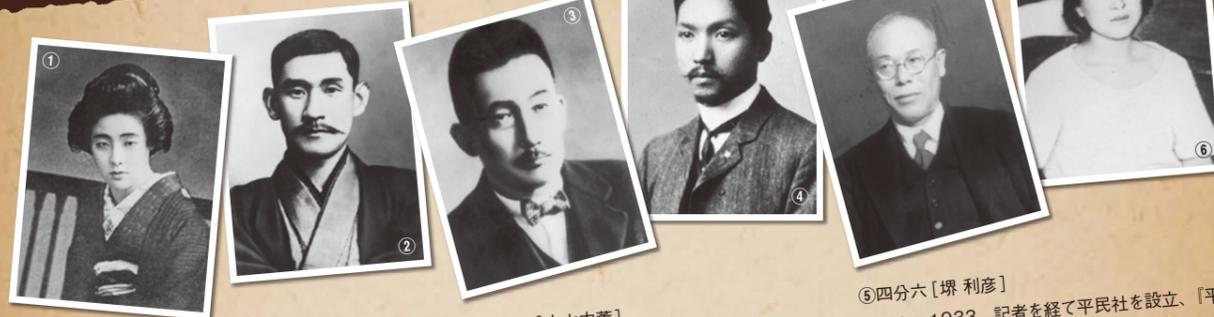
文芸協会から脱退した島村抱月と松井須磨子によって結成。須磨子を座長として、抱月は芸術的な成果を目標としながらも、一方では新劇の大衆化をめざし、浅草に進出したこともあり、劇中に主題歌を入れる方法を試みたりもした。特に第3回公演のトルストイの『復活』では主題歌「カチューシャの唄」が流行歌にもなり、人気を博す。大正7年に抱月が急死、翌年1月その後を追って須磨子が自殺したため、劇団は解体した。

ものがたり

明治43年、大逆事件が起こり、社会主義運動は「冬の時代」に入り、大正の幕があく。いつか行動を起こそうと、大逆事件の残党四分六はクロボトキン、暖村とともに売文社を創設。そこへ女優志願の野枝が『青鞥』編集長モナリザに会うため訪れる。演劇界では、ルバシカや早稲田、新聞記者サロメらが先生と日夜議論を重ねていた。先生率いる芸術座が須磨子主演の『復

活』で大成功をおさめるが、「娯楽劇と芸術劇の二元論」に自由劇場のルバシカは「自然の演技こそ真実」と真っ向から対立する。またフリーラブを提唱するクロボトキンはサロメと恋愛関係に。一方、野枝は夫の幽然坊との子を身ごもりながらクロボトキンと生きる決意をする。

あだ名で登場する実在の人物



①松井須磨子

1886～1919 『ハムレット』のオフィーリアで初舞台、「人形の家」のノラで喝采を浴び、現実の夫も捨て、指導者で演出だった抱月と恋に落ちる。そして「早稲田」(沢田正二郎)が相手役の『復活』で歌った「音楽学校」(中山晋平)作曲の「カチューシャの唄」が大ヒット。「カルメン」公演中、抱月の命日に大道具置き場で縊死。

②先生[島村抱月]

1871～1918 英仏に4年間留学、180回の観劇。師・坪内逍遙と文芸協会を創立。新劇運動の指導者として多くの翻訳劇を移入。時流の先を読み、商業演劇と芸術の統一を図るも、志半ばでスペイン風邪で急逝。

③ルバシカ[小山内薫]

1881～1928 自由劇場を興し、ドイツから帰国後は築地小劇場を創立。演出という仕事は確立、芸術家であると同時に社会改良者としての道を歩み、晩年は新しい国劇を目指したが、志半ばで急死。『火山灰地』などを書いた「学生」(久保栄)は弟子。

④クロボトキン[大杉栄]

1885～1923 幸徳秋水の影響でアナーキストとなり『平民新聞』『文明批評』を出すなど文筆と反戦・社会運動両面で活躍。無政府主義運動の中心人物で、野枝と結ばれるが、妻の保子、「サロメ」(神近市子)と四角関係となる。関東大震災後、野枝らと虐殺される。

⑤四分六[堺利彦]

1871～1933 記者を経て平民社を設立、『平民新聞』を発刊し、平民主義・社会主義・平和主義を広める。後に大杉栄、「暖村」(荒畑寒村)とともに売文社を興し、運動家の拠点に。日本社会党設立にも参加、社会主義運動を支えた実力者。

⑥野枝[伊藤野枝]

1895～1923 「幽然坊」(辻潤)と結婚するも家族制度に矛盾を感じ、青鞥社に参加、「モナリザ」(平塚らいてう)の後を継いで『青鞥』発行責任者に。一方、自ら無政府主義者となり、辻との間に2人の子供をもうけながら、大杉栄と結婚。母・妻・婦人解放の活動家として婦人解放のため戦う。



(左)『復活』の松井須磨子 (下) 平民社の前に立つ秋水、堺り

さいたまネクスト・シアター 第2回公演『美しきものの伝説』

日時：12月16日(木)～26日(日)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター(大ホール内)
作：宮本 研 演出：蛸川幸雄
出演：さいたまネクスト・シアター/原康義 横田栄司
料金：一般 3,800円 メンバーズ 3,500円
発売日：一般 10月16日(土) メンバーズ 10月9日(土)
※大ホール舞台上の特設客席のため、客席の形状が通常とは異なりますのでご了承ください。客席形状が決定次第、ホームページ <http://www.saf.or.jp>にてお知らせ致します。

	12月	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
13:00												
18:30												

ベル・エポック。……考えていたんだが、この大正という時代、のちになったら、みんながそういうだろうね。……のどかな……じれったいほどのどかな、美しい、いい時代だったとね。……つらい。……つらい。……何が、よき時代なものか。

美しくも破天荒に、ダンスで挑む 《大地の歌》の最終楽章〈告別〉

「ローザス」のケースマイケルがまたまた意欲的な作品に挑む。
現代音楽アンサンブル「イクトゥス」のライブ演奏に
メゾ・ソプラノの独唱のなか、コンセプチュアル・アーティストの
ジェローム・ベルを巻き込み、
マーラーの大作《大地の歌》の〈告別〉を展開しようというのだ。



Anne Teresa De Keersmaeker
+ Jérôme Bel + Ictus Ensemble

3 Abschied

『ドライアップシート 3つの別れ』

©Anne Van Aerschot

Interview

アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル & ジェローム・ベル

(ジャン＝リュック・ファフジャン[ピアノ演奏]によるインタビュー)

音楽とダンスの新しい関係

—あなたがたはこの作品でコラボレーションを行いました。なぜ1つの作品に2人の振付家が必要だったのでしょうか？また、このコラボレーションはどのように進化したのでしょうか？

ジェローム・ベル：私は1983年に彼女のカンパニーでの最初の作品『ローザス・ダンス・ローザス』を観ました。会場は騒然となっていました。とても素晴らしいと思いました。私は常に彼女の芸術的野心、厳格さ、倫理に敬意を抱いていました。ここ10年ほど、私たちは世界のあちこちのフェスティバルでしばしば顔を合わせるようになっていましたが、ある時、彼女からこの

プロジェクトと一緒に取り組まないかと提案されたのです。私は一秒もためらうことなくこの申し出を受け入れました。
アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル：私は彼の『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』に強い印象を受けました。それほどに作品のドラマトルギーが理解しやすいものだったのです。そして私たちのこれまでの作品で良かった点とそうでなかった点について語り合った会話などから、私は彼の問題提起の能力に衝撃を受けました。《大地の歌》の構想中に何が行き詰まり、私は自分の仕事の本質に立ち戻る、つまり音楽とダンスの関係を新しい方法で問う必要があるのを感じました。私と一緒に問題の解決に取り組む誰かが必要でした。そこで私は彼に、このプロジェクトに取り組みたい

か尋ね、彼はためらいなく了承しました。
ベル：仕事は結果としてうまくいきました。私たちの仕事は、互いが互いを補うようなところがあります。知性の基盤は、ほぼ真逆です。アンヌ・テレサは東洋の知に依拠し、私はその逆にポスト構造主義と言われる西洋の哲学に依っています。私は最初このコラボレーションは長続きしないだろうと思っていましたが、舞台に関する問題に直面した時、それぞれ使い慣れている概念を使うと、私たちは同じ解答に行きついたので。
ケースマイケル：同じ領域の人、同じ知識を共有している人と一緒に仕事ができることは、非常にまれなことですが、その場合、自分自身がダンスというものに入り込むことができます。自分のとは異なるけれども

Profile

アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル
Anne Teresa De Keersmaeker

ローザス芸術監督。モーリス・ベジャールのムードラ(ブリュッセル)、ティッシュ・スクール・オブ・アーツ(NY)で学ぶ。1983年、ムードラで学んだ4人の女性ダンサーでローザスを結成し、『ローザス・ダンス・ローザス』でデビューを飾る。音楽と身体の構造的関係を探究しつつ常に刺激的な作品を発表し続け、名実共に世界をリードする。2004年、細川俊夫作曲、大野和士指揮によるオペラ『班女』の演出を手がけた。『ドラミング』『レイン』『ツァイトトゥング』等、これまでのさいたま公演はいずれも大きな反響を呼んだ。

ジェローム・ベル
Jérôme Bel

1964年フランス生まれ。パリに在住し、世界的に活躍するダンサー、振付家。身体表現に説明的な言葉を織り交ぜたコンセプチュアルな作品で知られる。92年のアルベルビルオリンピックでは開会式・閉会式の演出を担当したフィリップ・ドゥクフレの助手を務める。94年に最初の振付作品を発表して以来、多数の作品を発表している。2004年にはパリ・オペラ座バレエ団に招かれ『ヴェロニク・ドワノー』を上演。01年に発表した代表作『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』は、05年のニューヨーク公演においてベッシー賞を受賞した。

アンサンブル・イクトゥス
Ictus Ensemble

世界を代表するベルギー・ブリュッセルの現代音楽アンサンブル。テーマ性の強い演奏会を行うことが多く、ステイーヴ・ライヒを始め、1950年代から現在までの、数多くの現代音楽作曲家の作品演奏を行っている。しばしばローザス作品で音楽を演奏している。2004年からフランスのリアル・オペラ座のレジデンス・アンサンブルを務める。演奏家(ワークショップ形式)や作曲家(2年間のフェローシップ)の育成にも力を注ぐとともに、15点以上のアルバムを発表。多くの有名ホールやフェスティバルにも招かれている。



©Herman Sorgeloos

アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル + ジェローム・ベル + アンサンブル・イクトゥス 『3 Abschied ドライアップシート (3つの別れ)』

日時：11月6日(土) 開演 15:00、7日(日) 開演 15:00

※両日とも終演後にジェローム・ベルによるポスト・トークあり

会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

コンセプト：アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル ジェローム・ベル

音楽：グスタフ・マーラー(アルノルト・シェーンベルク編曲)《大地の歌》より最終楽章〈告別〉

指揮：ジョルジュ＝エリ・オクトール ダンス：アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル

メゾ・ソプラノ：サラ・フルゴニ ピアノ：ジャン＝リュック・ファフジャン

演奏：アンサンブル・イクトゥス

チケット(税込)：好評発売中

一般：S席6,000円/A席4,000円/学生A席2,500円 メンバーズ：S席5,400円/A席3,600円

異質ではないこの第二の視線を得ることは、芸術上の真の贅沢です。

これは「実験的演劇」である

—《大地の歌》のオリジナル楽譜は、大編成のオーケストラのためのものですが、この作品で観客が聴くのはシェーンベルク編曲の室内楽版です。そして舞台の上に女性歌手、彼女と向き合う一人のダンサー、楽器のアンサンブルと指揮者を乗せるこの作品は、おもしろいことに『ドライアップシート(3つの別れ)』と題されています。それはなぜですか？

ケースマイケル&ベル：プロジェクトは本来《大地の歌》全曲によるものでした。けれどもすぐに、最終楽章の〈告別〉に惹きつけられていることに気付きました。私たちの「告別」への欲望があまりに強かったため、この音楽を減速させ、繰り返し、異なる方法で、異なるアングルから扱いました。こうして3つのバージョンが生まれたのです。

—『ドライアップシート』はマーラーのファンが彼の作品に捧げる、時に過剰で宗教的ともいえる絶対的な敬意の伝統とは相容れない恐れがあります。緊密に結びついたサイクルを持つ最終楽章を独立させ、切



©Herman Sorgeloos

り難し、回復するのですから……。けれども、創作過程で行われたすべての決断は、楽曲への真の愛情によることが理解されます。これは払わなければならない代償なのでしょうか、またそれはどうしてなのでしょう。か。
ケースマイケル&ベル：たしかにクラシックな意味合いでは、私たちが作品に「敬意」を払っていないと言うことは可能でしょう。なぜならそれを危険にさらしたのですから。私たちはこれほどまでに魅了される理由を知りたいと望んでいるのです。私たちは「コンテンポラリー・アーティスト」と呼ばれる存在であり、それぞれ創っているのは私た

ちが生きる現代の現実を舞台上で上演する「実験的演劇」です。私たちにとっての問題は、作品が私たちに今語りかけるもの、そして誕生後100年を経たこの作品がどのような方法で私たちがより良く今日の現実を理解する手助けをしているのかを理解することです。こうして、この作品が語るもの一死を受け入れること一、そしてそれを作品が語る方法—3篇の中国の詩に作曲されたドイツロマン派のリート(歌曲)—を通して、哲学・美・形式に対する私たちの問題提起がむき出しになり、あらゆる方向に開かれ、音楽とダンスが相互に豊かさを増していく。そこに私たちは興味を持っています。



秋からニューイヤーにかけて 彩の国がお届けする多彩なプログラムを楽しむ

文:片桐卓也 [音楽ライター]

クラシック・シーズン ラインナップ ※チケット情報はP.22にて

- 10月2日(土) 開演16:00 | NHK交響楽団
- 10月24日(日) 開演15:00 | エマニュエル・パユ&クリスティアン・リヴェ デュオ・リサイタル
- 10月31日(日) 開演15:00 | 庄司紗矢香&ジャンルカ・カシオーリ デュオ・リサイタル
- 12月5日(日) 開演15:00 | ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.14 アレクセイ・ゴルラッチ
- 12月10日(金) 開演12:10 | 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第12回 東京交響楽団メンバーによる金管五重奏
- 2011年1月8日(土) 開演15:00 | 埼玉会館ニューイヤー・コンサート 東京交響楽団
- 2011年1月22日(土) 開演15:00 | ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.15 エフゲニー・スドビン

記念イヤーだからじっくり深く親しむ

記念イヤーと言えば、2010年は平城京遷都1300年。個人的にはこれが気になっているのだけれど、ここではクラシック音楽の記念イヤーの話をしなければ。なんとと言ってもピアノの歴史を変えたロマン派のふたりの巨人、ショパンとシューマンの生誕200年(ふたりとも1810年の生まれ)なのだから。

記念イヤーの良い点は、記念される作曲家について深く知るチャンスがやってくる。普段分かっていると思って聴いている有名曲も、じっくり聴き直してみると意外な発見があるものだ。そうした出会いを準備してくれるのが記念イヤーなのである。

彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールでは新鋭ピアニストを紹介する「ピアノ・エトワール・シリーズ」が続いているが、12月



Alexej Gorlatch

にはアレクセイ・ゴルラッチによるオール・ショパン・プログラムが登場。この中にはショパンの最高傑作と呼ばれる「幻想ポロネーズ」や、シューマンに献呈した《バラード第2番》などショパンの充実した作品を集めた。ウクライナ生まれ(1988年)で浜松国際、ダブリン国際などの世界的コンクールに優勝した新鋭ゴルラッチのシャープな感覚で、ショパンの新しい魅力を発見しよう。

さらにこのシリーズでは2011年1月にロシア生まれのエフゲニー・スドビンが登場。スカララッティ、ショスタコーヴィチなどに加えて、ショパンとリストの作品も演奏予定に入っている。2011年はリスト(1811年生まれ)の生誕200周年となるが、この時代に多くの天才がまわって登場し、



Yevgeny Sudbin

お互いに影響を与え合ったことが分かるプログラムだ。スドビンが選んだリストの作品は《超絶技巧練習曲集》の第11番「タペの調べ」で、リストの叙情的な一面を代表する作品。ショパンの《バラード第4番》などと対比すると、それぞれの作曲家の個性もよく分かるはずだ。

それまで待てないという方には、すぐ10月にNHK交響楽団が現田茂夫の指揮でショパンの《ピアノ協奏曲第1番》を披露する(埼玉会館)。ピアノは2000年のショパン国際ピアノ・コンクール第2位の実力者イングリット・フリッター(アルゼンチン生まれ)が起用される。ショパンのピアノ協奏曲は2曲とも、まだポーランドに住んでいた20歳頃に書かれた。祖国への想いもたくさん詰まった天才的なひらめきに満ちた作品だ。フリッターの情熱的な演奏で、その天才的な音楽の魅力を再認識したい。加えて、メインにはドヴォルジャークの交響曲《新世界から》。ショパンのポーランド、ドヴォルジャークのチェコ(交響曲が作曲されたのはアメリカだが)、それぞれの祖国への想いも伝わってくる演奏会になるだろう。



Ingrid Fliter



Shigeo Genda

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホールの響きにひたる

音楽ホールの素晴らしいアコースティック(音響)を楽しむには、またとない企画が用意された。それが10月に行われるエマニュエル・パユ(フルート)&クリスティアン・リヴェ(ギター)のデュオ・リサイタル。パユと言えば、紹介するまでもなく、ベルリン・フィルの首席フルート奏者を務めながら、ソリストとしても大活躍しているフルート界の貴公子。その美しく華やかな音色は多くの音楽ファンを虜にしている。そしてパリを中心に活躍するギタリスト、リ

Sayaka Shoji & Gianluca Cascioli



ヴェとの共演がまた興味深い。

音楽ホールの響

きは、以前も歌とギターなどのデュオを聴いた際に、こうした小アンサンブル、デュオなどにぴったりだということが分かっている。バッハからピアソラ(名曲《タンゴの歴史》)まで、非常に幅広い時代と地域を旅する選曲も、とてもユニークで楽しみだ。

また10月には庄司紗矢香(ヴァイオリン)とジャンルカ・カシオーリ(ピアノ)のデュオ・リサイタルも行われる(チケット予定枚数終了)。しかもオール・ベートーヴェン・プログラム。何度か演奏を重ね、すでに録音も行っているふたりのデュオは、ベートーヴェンの未来像を作り出すようなスリリングなものになるはずだ。

Emmanuel Pahud & Christian Rivet





Classic Season 2010-2011
Saitama Hall



Tokyo Symphony
Orchestra

Norichika Iimori



©Yuki Hasuimoto



Yasuko
Ohtani

©尾形正茂



Maki Mori

©Yuji Hori



Miho Nakai

季節にふさわしい音楽で風を感じる

また年末年始にかけては、この時期にふさわしいコンサートも用意されている。まず12月には東京交響楽団メンバーによる金管五重奏の演奏会が行われる(埼玉会館)。これは金曜日のランチタイム・コンサートで、1000円で気軽に聴ける50分のプログラム。ちょうどクリスマス・シーズンを前にした時期なので、クリスマスの名曲、楽しいミュージカルの曲などが予定されている。しかも金管五重奏の音色はとても華やかで、欧米のクリスマス・シーズンという街頭でも金管五重奏の演奏をよく目にするほどポピュラーなものだ。

気軽に楽しめるコンサートなので、多くの方にこの楽しい時間を味わって欲しい。年が明けると、ニューイヤー・コンサートが待っている(埼玉会館)。2011年は東京交響楽団が登場して、新年ならではのウィーンの香りをお届けする。嬉しいことに、この演奏会にヨーロッパで活躍するソプラノの森麻季が参加し、喜歌劇「メリー・ウィドウ」の「ヴィリアの歌」やヨハン・シュトラウス2世のワルツ「春の声」などを披露する。ドイツやイタリアでも賞賛される森の華麗な歌声に、新しい年の到来を感じるのも良い。さらに、東京交響楽団のソロ・

コンサートマスターである大谷康子も、クライスラーの《愛の喜び》《愛の悲しみ》という名曲を演奏する。クライスラーはウィーン出身の名ヴァイオリニストで、作曲家として個性的な小品を残した。いかにもウィーン的な大人の感覚を味わえる作品がこのコンサートに華を添える。指揮は飯森範親。オペラも得意とする飯森のタクトによって、ウィenna・ワルツの世界にさらにドラマティックな要素が加わり、新年らしい華やかなコンサートになりそうだ。

秋から新年にかけて、盛りだくさんの音楽プログラムをぜひ楽しんでいただきたい。

Review 2010.7-8月の彩の国のアーツ

2010.7-8



©加藤英弘

MUSIC 7月10日
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.13 上原彩子

“未来の巨匠”たちが意欲的なプログラムを聴かせるシリーズ。記念イヤーにちなみ、オール・ショパン・プログラムに挑んだ上原彩子は、ソナタ第2番、《12の練習曲》などを熱演、新たな可能性を感じさせた。



©加藤英弘

MUSIC 7月18日
新日本フィルハーモニー交響楽団

音楽監督のアルミンクと息のあったところをきかせたウィーン古典派名曲演奏会。モーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番は、ソリストの南紫音の瑞々しい感性に包まれた演奏が好評を博した。

PLAY 7月11日
彩の国さいたま寄席
四季彩亭
～彩の国落語大賞受賞者の会
三遊亭歌奴



©加藤英弘

5度目の出演で見事大賞を受賞した三遊亭歌奴の会。歌奴の師匠、三遊亭圓歌は自身の新作落語「中沢家の人々」を披露。一方、古典落語を得意とする歌奴は、「掛取り」「寝床」を熱演し会場を沸かせた。



©加藤英弘

MUSIC 8月8日
熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラバンド!

今回はいろいろな踊りの曲が登場。指揮に挑戦したり、子どもたちが持ち寄った楽器や歌で、オーケストラと共演するコーナーも。いつもは客席から見て聴くだけのオーケストラを間近に子どもたちは大興奮。



©池上直哉

PLAY 8月10日
オックスフォード大学演劇協会(OUDS)『じゃじゃ馬ならし』

英国で最も古い歴史と伝統をもつ学生劇団による公演。見どころのひとつ、キャタリーナとペトルーチオの丁々発止のやり取りを、原語上演ならではの響きと台詞まわし、躍動感あふれる演技で堪能。



©Matron

DANCE 8月17日～19日
熊谷会館バレエ・セミナー

日本を代表する現役トップ・ダンサー、中村恩恵と酒井はなの指導を受け、小学校低学年からの小さなバレリーナたちが集まった。基礎からさらに一歩先の表現まで、真剣な表情で講師の指導に聴いていた。

EVENT CALENDAR

2010.9.15-2010.11.30

9 September	
15 水	PLAY さいたまゴールド・シアター 第4回公演『聖地』 開演18:30 ※詳細はP.22にて 臨時休館日(熊谷会館)
16 木	
17 金	CINEMA 彩の国シネマスタジオ 埼玉会館上映会 『葦牙ーあしかびー ことが拓く未来』 上映時間 10:30 / 14:30 / 18:30 ※小池征人監督来館。10:30、14:30の回は上映終了後にトーク、18:30の回は舞台挨拶後に上映。 ※詳細はP.21にて PLAY さいたまゴールド・シアター 第4回公演『聖地』 開演14:00
18 土	PLAY さいたまゴールド・シアター 第4回公演『聖地』 開演14:00
19 日	PLAY さいたまゴールド・シアター 第4回公演『聖地』 開演14:00
20 月	PLAY さいたまゴールド・シアター 第4回公演『聖地』 開演14:00
21 火	
22 水	PLAY さいたまゴールド・シアター 第4回公演『聖地』 開演18:30
23 木	PLAY さいたまゴールド・シアター 第4回公演『聖地』 開演14:00
24 金	
25 土	PLAY さいたまゴールド・シアター 第4回公演『聖地』 開演14:00 MUSIC 光の庭プロムナード・コンサート ～笛、さまざま～ 開演14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 出演=大塚直哉(オルガン) 菊池香苗(フルート、フラウト・トラヴェルソ) 曲目=オートテール:フルートと通奏低音のための組曲 ほか
26 日	PLAY さいたまゴールド・シアター 第4回公演『聖地』 開演14:00
27 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
28 火	
29 水	
30 木	
10 October	
1 金	
2 土	MUSIC NHK 交響楽団 会場=埼玉会館 大ホール 開演16:00 ※15:25～15:40指揮者によるプレコンサート・トークあり ※詳細はP.16、22にて
3 日	
4 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
5 火	
6 水	
7 木	
8 金	CINEMA 彩の国シネマスタジオ オペラ映画『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』 上映時間 10:30 / 14:30 / 18:30 ※詳細はP.21にて 臨時休館日(熊谷会館)
9 土	CINEMA 彩の国シネマスタジオ オペラ映画『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』 上映時間 10:30 / 14:30 / 18:30
10 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ オペラ映画『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』 上映時間 10:30 / 14:30 / 18:30 ※14:30上映回終了後、音楽評論家・園土潤一氏によるアフタートークあり
11 月	CINEMA 彩の国シネマスタジオ オペラ映画『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』 上映時間 10:30 / 14:30
12 火	
13 水	
14 木	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演18:30 ※詳細はP.4～6にて
15 金	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演18:30 臨時休館日(熊谷会館)
16 土	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演13:00 / 18:30
17 日	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演13:00 PLAY 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～日本武春と若手精鋭落語会～ 開演14:00 ※詳細はP.22にて
18 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
19 火	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演13:00 / 18:30

20 水	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演13:00
21 木	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演13:00
22 金	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演18:30
23 土	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演13:00 / 18:30
24 日	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演13:00 MUSIC エマニュエル・バユ(フルート) & クリスティアン・リヴェ(ギター) デュオ・リサイタル 開演15:00 ※詳細はP.17、22にて
25 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場、熊谷会館)
26 火	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演13:00 / 18:30 臨時休館日(熊谷会館)
27 水	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演13:00
28 木	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演13:00 / 18:30
29 金	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演18:30
30 土	PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』 開演13:00
31 日	MUSIC 庄司紗矢香(ヴァイオリン) & ジャンルカ・カシオーリ(ピアノ) デュオ・リサイタル 開演15:00 ※予定枚数終了いたしました
11 November	
1 月	
2 火	
3 水	
4 木	
5 金	
6 土	DANCE アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル+ジェローム・ベル+アンサンブル・イクトゥス 『3Abschied ドライアップシート(3つの別れ)』 開演15:00 ※終演後、ジェローム・ベルによるポスト・トークあり ※詳細はP.14～15にて
7 日	DANCE アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル+ジェローム・ベル+アンサンブル・イクトゥス 『3Abschied ドライアップシート(3つの別れ)』 開演15:00 ※終演後、ジェローム・ベルによるポスト・トークあり
8 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
9 火	
10 水	
11 木	
12 金	CINEMA 彩の国シネマスタジオ 『小三治』 上映時間 12:40 / 15:30 / 18:40 ※各日2回上映前に埼玉大学落語研究会による落語があります。詳細はP.21にて
13 土	CINEMA 彩の国シネマスタジオ 『小三治』 上映時間 10:00 / 12:50 / 16:00 / 18:50
14 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ 『小三治』 上映時間 10:00 / 12:50 / 16:00
15 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場、熊谷会館)
16 火	
17 水	
18 木	
19 金	
20 土	
21 日	
22 月	
23 火	
24 水	
25 木	
26 金	
27 土	MUSIC 光の庭プロムナード・コンサート 秋から冬へ～万葉節と待降節の音楽を集めて～ 開演14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 出演=早川幸子(オルガン) & 小笠原美敬(バス・バリトン) 曲目=G. ベーム:コラール・バルティエータ(大いに喜べ、お我が魂よ) ほか
28 日	
29 月	
30 火	

3才以上のお子さんから楽しんでもいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

前売りチケット発売情報(～2010.11.15)

PLAY

維新派 (彼)と旅をする20世紀三部作#3

『台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき』

チケット発売日

一般:10月2日(土) メンバース:9月25日(土) 詳細は P.7～9にて

PLAY

さいたまネクスト・シアター 第2回公演『美しきものの伝説』

チケット発売日

一般:10月16日(土) メンバース:10月9日(土) 詳細は P.10～13にて

PLAY

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～林家たい平とおすすめ若手落語会

新春の四季彩亭は、好評企画の第二弾! 林家たい平と、たい平が自信をもっておすすめする旬の若手落語家による競演会です。

チケット発売日

一般:10月17日(日) メンバース:10月9日(土)

日時=2011年1月14日(金) 開演19:00

会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

出演=林家たい平 ほか

料金=一般:3,000円 メンバース:2,700円 ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者):2,000円



加藤英弘

彩の国シネマスタジオ LINE UP 2010.10-12

【料金】大人一律1,000円/小中高生800円(当日支払いのみ)

※9月の埼玉会館上映会、10月のオペラ映画(前売券あり)、12月の熊谷会館上映会には料金が異なります。詳細は各欄をご確認ください。

【会場】特に記載のないものは、彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

10月



オペラ映画

『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』

ウェリズモ・オペラの2大傑作が登場!! 『椿姫』のゼッフィレッリ監督が若き日のブラシド・ドミンゴ主演で贈る、愛と裏切りの物語。

8日(金) 10:30 / 14:30 / 18:30

9日(土) 10:30 / 14:30 / 18:30

10日(日) 10:30 / 14:30 / 18:30

11日(月・祝) 10:30 / 14:30

※10日(日) 14:30上映回終了後、音楽評論家・園土潤一氏によるアフタートークあり。

【監督】フランコ・ゼッフィレッリ

【指揮】ジョルジュ・ブレートル

【演奏】ミラノ・スカラ座管弦楽団・合唱団

【出演】ブラシド・ドミンゴ ほか (1982年/イタリア・ドイツ/各70分)

【料金】一般:前売2,300円/当日2,500円

メンバース、シニア券(60歳以上・障がい者):前売・当日2,000円

11月



『小三治』

言葉よりも、ひとの“こころ”ありき……高座はもちろん、全国各地の落語会へと向かう道中や舞台裏、多彩な趣味の世界に没頭する“人間・柳家小三治”を追ったドキュメンタリー。

12日(金) 12:40 / 15:30 / 18:40

13日(土) 10:00 / 12:50 / 16:00 / 18:50

14日(日) 10:00 / 12:50 / 16:00

※各日2回上映前に埼玉大学落語研究会による落語があります。

【監督】康 宇政

【出演】柳家小三治 入船亭扇橋 柳家三三 立川志の輔 桂 米朝

【語り】梅沢昌代 (2009年/日本/104分)

DANCE

コンドルズ 埼玉公演2011 新作

2011年新春、新作をひっさげ5度目のさいたま登場。
パワー全開のロックなダンスと学ラン姿で永遠の青春を踊り上げる!



© HARU

チケット発売日

一般:10月30日(土) メンバース:10月23日(土)

日時=2011年1月29日(土) 開演14:00 / 19:00

30日(日) 開演16:00

※埼玉アーツシアター通信26号にて発表の日程から変更となりました。

会場=彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

構成・映像・振付=近藤良平 出演=コンドルズ

料金=一般:前売4,500円/当日5,000円/学生2,500円

メンバース:前売4,050円/当日4,500円

12月



『オーケストラ!』

10日(金)～12日(日)

【監督・脚本】ラデュ・ミヘイレアヌ

【出演】アレクセイ・グシコフ

メラニー・ロラン フランソワ・ベルレアン

ミュウ・ミュウ

(2009年/フランス/124分)

© 2009 - Les Productions du Tresor

埼玉会館上映会 9月



『葦牙ーあしかびー』

17日(金) 10:30 / 14:30 / 18:30

※小池監督来館。10:30、14:30の回は上映終了後にトーク、18:30の回は舞台挨拶後に上映。

【監督】小池征人 (2009年/日本/113分)

【料金】大人:1,000円 小中高生:500円

© 記録映画『葦牙ーあしかびー』制作委員会

熊谷会館上映会 12月



『青い山脈』

『また逢う日まで』

『真昼の暗黒』 『純愛物語』

16日(木)～17日(金)

【監督】今井 正

【料金】一般・小中高生とも1作品500円

【青い山脈】

【チケットの購入方法について】

【電話予約】チケットセンター

0570-064-939

10:00～19:00(休館日を除く) ※一部携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

【窓口販売】※休館日を除く

・彩の国さいたま芸術劇場 10:00～19:00

・埼玉会館 10:00～19:00 ・熊谷会館 10:00～17:00

【SAF Online Ticket】

一般発売初日10時より受付開始し、公演前日23:59まで受付いたします。

・財団ホームページ <http://www.saf.or.jp>

・携帯サイト <http://www.saf.or.jp/mobile/>

※利用登録が必要です(無料)。



発売中公演情報 (2010.9.15 ~)

PLAY

彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾

『じゃじゃ馬馴らし』

詳細は P.4 ~ 6 にて

さいたまゴールド・シアター 第4回公演『聖地』

日時=9月14日(火)~26日(日) 全10公演

会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

作=松井 周 演出=鏡川 幸雄

出演=さいたまゴールド・シアター ほか

料金=一般:3,000円 メンバース:2,700円

彩の国さいたま寄席 四季彩亭

~国本武春と若手精鋭落語会

日時=10月17日(日) 開演14:00

会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 出演=国本武春(浪曲) ほか

料金=一般:3,000円 メンバース:2,700円

ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者):2,000円

※10月公演から、ゆうゆう割引の対象者は、65歳以上・障がい者に変更となりますので、あらかじめご了承ください。

DANCE

アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル+ジェローム・ベル

+アンサンブル・イクトゥス

『3Abschied ドライアップシート(3つの別れ)』

詳細は P.14 ~ 15 にて

CINEMA

彩の国シネマスタジオ オペラ映画

『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』

詳細は P.21 にて

公演詳細は、財団ホームページ

<http://www.saf.or.jp> にて

PICK UP

秋の四季彩亭に国本武春の三味線が響き渡る!

秋の四季彩亭は、浪曲界のカリスマ・国本武春が5年ぶりに登場。ギターのフレーズを取り入れた独自の三味線奏法と語りで武春節をじっくり聴かせます。共演はいま聴いておきたい旬の若手落語家たち。桃月庵白酒は、愛すべき風貌とは裏腹に毒気の利いた鋭い芸で爆笑を誘います。桂文雀は今年3月に真打に昇進したばかりの若手注目。入船亭遊一は二ツ目ながら寄席はもちろん映画出演など様々な場面で奮闘中。四季彩亭ならではの魅力的な顔合わせにどうぞ期待ください!

彩の国さいたま寄席 四季彩亭

~国本武春と若手精鋭落語会

日時:10月17日(日) 開演14:00

会場:彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

出演:国本武春(浪曲) 桃月庵白酒 桂文雀 入船亭遊一

料金:一般:3,000円 メンバース:2,700円

ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者):2,000円

※10月公演から、ゆうゆう割引の対象者は、65歳以上・障がい者に変更となりましたので、あらかじめご了承ください。



国本武春



桃月庵白酒



桂文雀



入船亭遊一

MUSIC 公演紹介はP.16 ~ 18 にて

NHK交響楽団

日時=10月2日(土) 開演16:00 ※15:25 ~ 15:40 指揮者によるプレコンサート・トーク

会場=埼玉会館 大ホール 出演=現田茂夫(指揮) イングリット・フリッター(ピアノ)

曲目=ショパン:ピアノ協奏曲第1番 ドヴォルジャーク:交響曲第9番《新世界から》ほか

料金=一般:S席6,500円/A席5,000円/B席4,000円/学生B席2,000円

メンバーズ:S席6,000円/A席4,500円/B席3,600円

エマニュエル・パユ(フルート)&クリスティアン・リヴェ(ギター) デュオ・リサイタル

日時=10月24日(日) 開演15:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

曲目=J.S. バッハ:フルートと通奏低音のためのソナタ ハ長調 BWV1033

ヴィラ=ロボス:《ブラジル風バッハ第5番》より(アリア)

ピアノ:タンゴの歴史 ほか

料金=一般:正面席6,000円 メンバース:正面席5,500円

※バルコニー席、学生席は予定枚数終了しました

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.14 アレクセイ・ゴルラッチ

日時=12月5日(日) 開演15:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

曲目=ショパン:華麗なる大円舞曲、舟歌、幻想ポロネーズ、スケルツォ第2番 ほか

料金=一般:正面席3,500円 メンバース:正面席3,150円

※バルコニー席、学生席は予定枚数終了しました

埼玉会館ランチタイム・コンサート

第12回 東京交響楽団メンバーによる金管五重奏

日時=12月10日(金) 開演12:10(終演予定13:00) 会場=埼玉会館 大ホール

曲目=もろびとこぞりて、《サウンド・オブ・ミュージック》より ほか

料金=全席指定1,000円

埼玉会館ニューイヤー・コンサート

東京交響楽団 飯森範親(指揮) 森 麻季(ソプラノ) 大谷康子(ヴァイオリン) 中井美穂(司会)

日時=2011年1月8日(土) 開演15:00 会場=埼玉会館 大ホール

曲目=J. シュトラウスII:皇帝円舞曲、ウィーンの森の物語、喜歌劇《こもり》より“侯爵様、あなたのようなお方は”、美しく青きドナウ ほか

料金=一般:S席5,000円/A席4,000円/B席3,000円/学生B席1,500円

メンバーズ:S席4,500円/A席3,600円/B席2,700円

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.15 エフゲニー・ストピン

日時=2011年1月22日(土) 開演15:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

曲目=スカルラッチェ:3つのソナタ K.466・K.455・K.27

ショパン:バラード第3番、バラード第4番 リスト:タベの調べ

ラヴェル:夜のガスパール ほか

※当初発表のプログラムが変更となりました。あらかじめご了承ください。

料金=一般:正面席3,500円/バルコニー席2,500円/学生席(バルコニー席)1,000円

メンバーズ:正面席3,150円

THEATER BRIDGE

施設利用休止のお知らせ

彩の国さいたま芸術劇場は、2010年10月で開館16周年を迎えます。皆さまのご愛顧に深く感謝申し上げます。

さて、当劇場におきましては、今後も皆さまに安心して施設をご利用いただくため、ホールの設備等の改修を予定しております。

このため、下記の期間、施設のご利用を休止させていただきます。ご不便をおかけしますが、何とぞご理解くださいますようお願い申し上げます。

・大ホール、小ホール 2011年2月1日~7月31日

・音楽ホール、映像ホール 2011年2月1日~7月14日

・稽古場、練習室 2011年2月1日~6月30日

※改修期間等に変更が生じた場合は、財団ホームページ等でお知らせいたします。

【問合せ先】彩の国さいたま芸術劇場 管理課施設担当 Tel.048-858-5508



ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.15

エフゲニー・ストピン

プログラムの変更についてメッセージが届きました

私は、芸術的に意味深く、効果的なプログラムをできるかぎり組みますが、早い段階で組んだプログラムについては、より良いプログラムに変更することが時に必要となるのです。

変更後のプログラムは、演奏に際してよりまとまりがあると同時に、様式の多様性とコントラストをお示しできる、皆様にとっても多彩なものになったと考えております。

まず、スカルラッチェとショスタコーヴィチのシリアスで機知に富んだ作品を、ショパン、リスト、ラヴェルのロマンティックな性格小品と並べてみました。加えて、このプログラムのテーマとして、ロマン主義時代の音楽の物語的な側面、いわゆる「標題」音楽についての探求を試みています。ショパンのバラードポーランド(ポーランド=リトアニア)の詩人アダム・ミツキエヴィチから実際に影響を受けたものであるかどうか議論の余地があるとはいえ、ラヴェルの《夜のガスパール》における物語的な要素はことさら際立っています。調性の多義性や印象主義的な音の響きに対するリストのすぐれた理解力によって生み出されたエチュード《タベの調べ》は、時代に先駆けたものとして位置づけられるとともに、ショパンの極めて表現的な響きの世界と《夜のガスパール》の幻覚世界とをつないでいるのです。

皆様はこのたびのプログラムを楽しんでいただけることを強く望んでおります。



エフゲニー・ストピン

ACCESS MAP アクセスマップ

彩の国さいたま芸術劇場



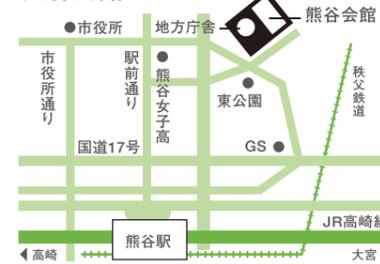
〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上崎3-15-1
電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515
電車でのアクセス JR 埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分
バスでのアクセス JR 北浦和駅から西武バス大久保行き「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477
電車でのアクセス JR 京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

熊谷会館



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2
電話:048-523-2535(代) ファックス:048-523-2536
電車でのアクセス JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車場数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

■サポーター会員

(財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蛭川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(財) 埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株) 与野フードセンター / (株) 亀屋 / 武州ガス(株) / (株) 松本商会 / (有) 香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / (株) テレビ埼玉ミュージック / 埼玉りそな銀行 / (株) パシフィックアートセンター / アサヒ印刷(株) / FM NACK5 / 東京電力(株) 埼玉支店 / 東京ガス(株) / カヤバ システム マシナリー(株) / (株) タムロン / (株) 十万石ふくさや / 森平舞台機構(株) / 日本データコム(株) / (株) ビルメン / 東芝ライテック(株) / 埼玉トヨタ自動車(株) / (有) 齋賀設計工務 / ゲレツツ・ジャパン・スズゼン(株) / 武蔵野銀行 / 浦和ロイヤルパインズホテル / (株) アルピーノ / 国際照明(株) / (株) サイサン 会長 川本宜彦 / 三国コカ・コーラボトリング(株) / 埼玉スバル自動車(株) / 桶本興業(株) / (株) 佐伯紙工所 / (株) 太陽商工 / (株) しまむら / アイジャパン(株) / (有) 六辻ゴルフセンター / 不動開発(株) / ビストロ やま / 埼玉縣信用金庫 / (株) 栗原運輸 / 彩の国SPグループ / (有) プラネット / 関東自動車(株) / (株) クマクラ / (株) デサン / (株) 中島運輸 / セントラル自動車技研(株) / (株) アズマン / 丸美屋食品工業(株) / ポラスグループ / ひがし歯科 / (株) 日産サティオ埼玉 / 埼玉トヨペット(株) / 公認会計士 宮原敏夫事務所 / (株) 価値総合研究所 / (株) 埼玉交通 / 医療法人 顕正会 蓮田病院 / (株) ウイズネット / サイデン化学(株) / アイル・コーポレーション(株) / 五光印刷(株) / 旭ビル管理(株) / ヤマハサウンドシステム(株) / (株) エステックサービス / (株) クリーン工房 / (株) つばめタクシー / (株) サンワックス / (株) 総合舞台 / (株) タクトコーポレーション / 広総業(株) / (財) さいたま住宅検査センター / (株) コマーム / 相川 宗一

H22.8.15現在 / 一部未掲載

【問合せ先】 (財) 埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

劇場に集う、劇場で働く

第2回 照明プランナー【技術スタッフ】

照明ひとつで、昼にも夜にもなる劇場の舞台空間。それだけではなく、照明力で緊張感あふれるシーンがつけられるし、家族団らんのシーンも照明で表現できる。今回登場は、彩の国さいたま芸術劇場の技術スタッフの一人、照明プランナーの岩品武顕。

「基本的には光を使って演出的な効果をだすというのが照明の仕事ですが、光は何かにあたってそれが反射することで色が見えたり形が見えたりします。どのようにあてるかというだけではなく、照明によってその場の空気感が変わっていくことが、プランナーの仕事の醍醐味ですね」

その作品なり場なりの空気と時間の流れ、それをしっかりとつくること。例えばシーンの変化のタイミング、あるシーンから次のシーンに移るタイミングにしても、いつ変わるのか、どのような早さで変わるのか、そういうことも含めて作品全体の流れを照明で構築していく。

1998年の『十二夜』がプランナーとして蛭川作品との最初の出会だったが、近年の蛭川演出は、演技に対してと同様、照明に対しても「自らアドリブ演出だと称していますが、あらかじめきちっとしたプランを決めないで、稽古にのぞんでいます。ですから僕はもちろん台本を読み、作品の雰囲気はつかみませんが、先走ってプランを立てると見込み違いが起きちゃうことがあり、スタッフにも迷惑をかけてしまいます。空気感を読むという意味からも日々稽古場において、蛭川さんの意図を探ってプランにかかります」

といっても初日の数日前には舞台天井に吊るされたバトンに照明を仕込まなければいけない。それも、舞台稽古の「明かりあわせ」で演出家のダメだしができればすぐに修正できるよう、あらかじめどんな要求にも応えられるように照明を仕込む。昼間の稽古がおわり、修正は夜の作業、初日前に徹夜作業になることもしばしば。



1998年、蛭川幸雄演出、岩品武顕照明の『十二夜』



舞台の天井までの高さは9m、吊り物のバトンは36本を数える

「前回のゴールド・シアターの『アンドウ家の一夜』もそうでしたが、小ホールを全面を舞台として使う場合、客席の位置によって照明の見え方に差がついてはいけなくて、全方位からあてなくちゃいけない、それもできるだけ明るくするのですが、そうするとのっぺりした感じの明かりになってしまうんです。しっかり見えてつもの、ある程度エッジのきいた陰影のある舞台にしないと、というところでいつも試行錯誤しています。蛭川さんがどういった明かりだったら気に入るのか、何となくわかっているんですけど、僕自身のプランナーとしての思いもあって、僕の明かりをつくって勝負を賭けるんですね。まあ、全戦全敗なんですけど(笑)。一つの作品で一つは演出家と戦わなければいけないと思っていますので、たとえ、そのプランがダメで、修正したとしても自分のテイストはある程度残っている。そこに自分らしさがあればいいかなと思っています」